

付着生物ラーバ情報

来春のユウレイボヤ付着量は少ない見込み

1 ラーバ等の出現状況

ラーバ等の調査地点は図1、出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ (通称：ハナ)

ラーバは見られませんでした (表1、図2)。

(2) マボヤ

ラーバは奥内沖で11月28日、野辺地沖で11月21日、川内沖で12月6日にいずれも0.8個体/m³見られました (表1、図4)。

卵は奥内沖で11月21日に1.7個/m³、11月28日に6.7個/m³、久栗坂沖で12月6日に6.7個/m³、野辺地沖で11月21日に2.3個/m³、川内沖で12月6日に1.6個/m³見られました (表1)。

(3) その他

キヌマトイガイのラーバが奥内沖で11月28日に1.7個体/m³見られました (表1)。

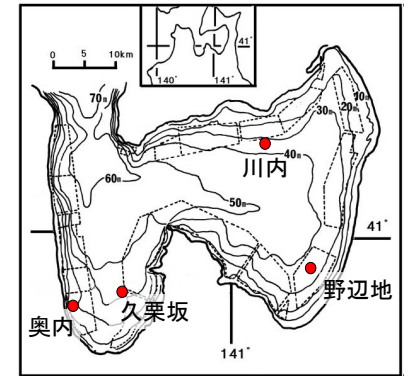


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	サラボヤ	キヌマトイガイ	ムラサキガイ	サンカクフジツボ	マボヤ	
							ラーバ	卵
奥内沖	R4.11.21	0.0	0.0	0.0	7.5	0.0	0.0	1.7
	R4.11.28	0.0	0.0	1.7	37.5	0.0	0.8	6.7
久栗坂沖	R4.12.6	0.0	0.0	0.0	22.8	0.0	0.0	6.7
野辺地沖	R4.11.21	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.8	2.3
川内沖	R4.12.6	0.0	0.0	0.0	3.9	0.0	0.8	1.6

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

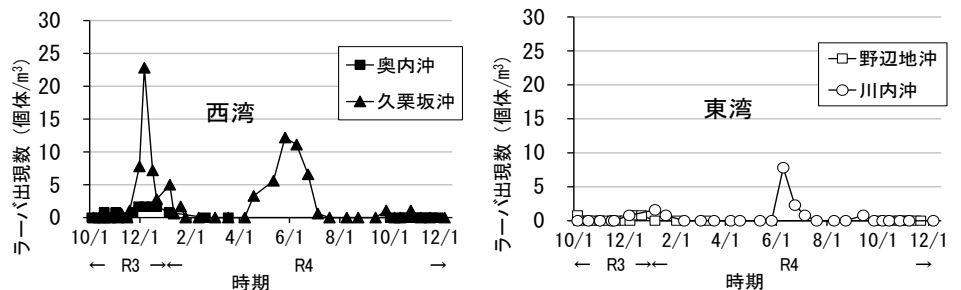


図2 ユウレイボヤラーバ出現数の推移 (令和3年10月～令和4年11月)
・平成25年の観察開始から現在までの最大値：西湾 25個体/m³、東湾 10個体/m³

2 今後の見込み

ユウレイボヤは例年10月～12月にラーバが出現しますが、今季はほとんど出現していません (図2)。これまでの調査で、ラーバ累積出現数が5個体/m³以下もしくは冬季の平均水温が8℃以上であれば春の付着量が少ない傾向となることが分かっています (図3)。今季は最も多い奥内沖でもラーバ累積出現数が1.1個体/m³と少なくなっており、現時点では**来春の半成貝出荷時のネットへの付着量は少ないことが予測されます。**

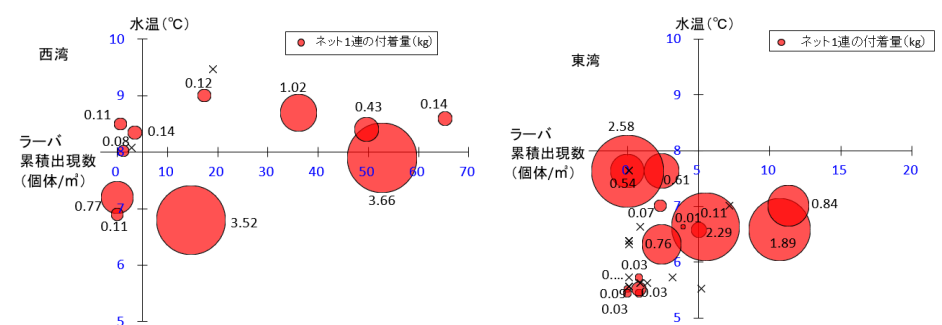


図3 平成16年～令和3年のユウレイボヤのラーバ累積出現数、青森ブイまたは東湾ブイ水深15mの冬季の平均水温と翌春のパールネット1連の付着量の関係 (○印の中心はプロット位置、面積は付着量、×は付着量が0kg)

3 マボヤ天然採苗情報

マボヤの卵が11月中旬よりも増加していることから、付着は今後進む見込みです。

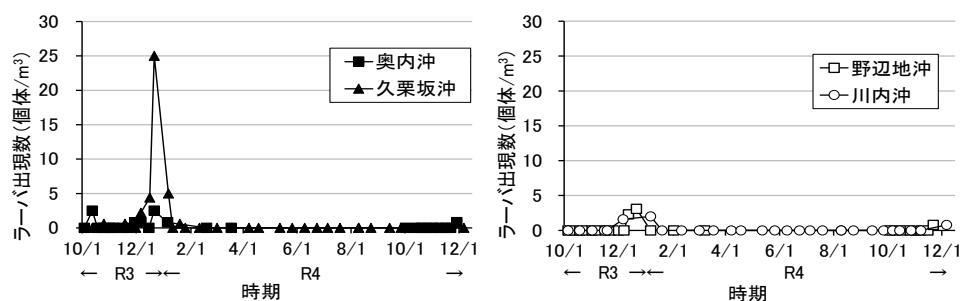


図4 マボヤラーバ出現数の推移 (令和3年10月～令和4年12月)
・平成28年の観察開始から現在までの最大値：西湾 27個体/m³、東湾 5個体/m³

